



愛知県歯科医学大会

～新時代の歯科医療を考える～

日時/令和3年2月21日(日) 9:15～16:15

開催形式/ハイブリッド形式(会場受講およびWeb開催の併用)

場所/愛知県歯科医師会館

主催 (一社) 愛知県歯科医師会

共催 (一社) 愛知県歯科技工士会

(公社) 愛知県歯科衛生士会



プログラム

(敬称略)

開 会 式 9:15～9:45

挨拶	(一社)愛知県歯科医師会	会長	内堀典保
	(一社)愛知県歯科技工士会	会長	久野富雄
	(公社)愛知県歯科衛生士会	会長	金森いづみ

■ (一社)愛知県歯科医師会 主催講演 ■ 10:00～12:00

デジタルデンティストリーの現在地 - CAD/CAM 冠の保険導入に期待! -

(一社)日本デジタル歯科学会 理事長
大阪歯科大学 客員教授

末瀬 一彦

■ (一社)愛知県歯科技工士会 主催講演 ■ 13:00～14:30

Labo Communication

有限会社 関錦二郎商店

関 錦二郎

■ (公社)愛知県歯科衛生士会 主催講演 ■ 14:45～16:15

新型コロナウイルスについて - ウイルス学と歯科臨床の両方の視点で -

名古屋大学大学院医学系研究科
微生物免疫学講座ウイルス学 助教

渡辺 崇広



ご 挨拶

(一社) 愛知県歯科医師会
会長 内堀 典保

令和2年度愛知県歯科医学大会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。昨年は東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定され、活気に満ちた年と期待されました。しかし1月より新型コロナウイルスが世界的な流行を見せ始め、4月には日本でも緊急事態宣言が出されるまでになりました。目まぐるしく変わる情勢の中で国民の健康を守るため、歯科医師会として会員の皆様へのサポートを続けてまいりました。ただ今日までの医療体制を維持されてこれたのは、偏に皆様の努力の賜物です。この場をもってお礼を申し上げます。

さて、例年ですと愛知県歯科医学大会は、中部地区最大のイベントとして吹上ホールにて盛大に開催されますが、今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響で歯科医師会館での開催となり、44回目を迎えるはずだった中部日本デンタルショーは中止となりました。しかし、どのような状況においても現代歯科医学の進歩・発展を図るとともに、高水準の歯科医療提供をさらに推し進める学術大会にしていきたいと考えております。今年度は『新時代の歯科医療を考える』をテーマに開催いたします。

午前は、愛知県歯科医師会主催講演「デジタルデンティストリーの現在地 ～CAD/CAM冠の保険導入に期待！～」と題し、大阪歯科大学客員教授 末瀬一彦先生にご講演していただきます。最近用いられるようになってきました口腔内スキャナーによる印象採得などの新しい技術は、全ての歯科に携わる者にとって興味深いものであります。

午後からは、愛知県歯科技工士会主催講演「Labo Communication」と題し、有限会社関錦二郎商店の関錦二郎氏にご講演していただきます。高水準な歯科治療を行うには歯科医師と技工士のきめ細やかな連携が欠かせません。この講演を機会に見直されてみるのもいかがでしょうか。

続いて、愛知県歯科衛生士会主催講演「新型コロナウイルスについて～ウイルス学と歯科臨床の両方の視点で～」と題し、講師に名古屋大学大学院 助教 渡辺崇広先生にご講演していただきます。院内感染の予防は重要ではありますが、とるべき対策をどう決めるのかは難しいものです。本講演ではウイルスの特性にスポットを当てた内容になっております。本大会の講演は会場受講およびオンライン聴講によるハイブリッド形式により感染対策を行って実施します。

最後になりましたが、本大会の企画、準備、運営等にご尽力賜りました関係各位のご努力に対し、心より御礼申し上げますとともに、今後ともさらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



ご 挨拶

(一社) 愛知県歯科技工士会
会長 久野 富雄

昨年の歯科医学大会の開催日前に始まった新型コロナウイルス感染が未だに続いている今日において、開催にあたり感染予防対策環境を整えるのに大変なご苦勞をされたこととお察し申し上げます。この様な中、愛知県歯科医学大会が開催されますことお喜び申し上げます。(一社)愛知県歯科医師会、(公社)愛知県歯科衛生士会の皆様方と共に(一社)愛知県歯科技工士会も参加させて頂けますこと(一社)愛知県歯科技工士会を代表して関係各位の皆様方のご尽力に対して心より敬意を表すると共に感謝申し上げます。

(一社)愛知県歯科技工士会では昨年のコロナ禍の中、あらゆる行事を行う事ができず苛立ちを感じておりました。しかし、Webを使用して行う講演会、会議、会員との交流が、今までと違った形で図る事ができるようになった事は大きな進歩であったと思われれます。以前は何かにつけて一箇所に集まり行事を行わなければならなかった事業において、遠距離に在住する会員等がLiveにおいて参加する事ができる講演会等を実施できるようになったことは、大きな救いと進歩ではなかったかと感じています。すでに始まっていますが歯科技工の補綴においては口腔内スキャナーの活用とCAD/CAMの使用により今までの補綴物の製作方法とは大きく変わってきています。Webの使用、AIの技術進歩により大きく変化していくのではないかと期待して止まないとこです。昨年のコロナ禍の中(一社)愛知県歯科技工士会では、Webを使用して講演会を行った結果、聴講者を会館に集めて行っていた従来の講演会よりも多くの人に参加して頂いた事、または県外の遠方の方にも聴講して頂けた事などが良い点であったと自負しています。一番大きなメリットは会場に向かうための往復の時間が必要ないという事です。これとは反対に人と触れ合って会話を交わしたり、友好を深めたりといった行為ができないことがデメリットであったと思われれます。

今年度の技工士会企画講演会では、セラミストの第一人者である関錦二郎先生をお迎えしてテーマ「Labo Communication」をお話しして頂きます。チェアサイドとラボサイドのコミュニケーションが如何に良い補綴物を生みだし、患者さんにとって満足のいく治療になるか等をお話し頂く予定です。この様な行為は対面のものであれWebであれ必要なことと思っています。先生は歯科雑誌等に於いて数々の執筆業績を残しておられる演者です。この機会に歯科医師の先生方、歯科衛生士さん方にも是非、生のお話をお聞きいただければ幸いと願っています。

この歯科医学大会に(一社)愛知県歯科技工士会も歯科医療人として参加させて頂き、歯科医療の技術革新、研究、開発、研鑽等に参画することが使命であり役割ではないかと確信しています。最後になりましたが、本大会を運営するに当たりご尽力されました関係各位の皆様方に御礼を申し上げますと共に、この大会を期に歯科医療界がステップアップする事を祈念して挨拶とさせて頂きます。



ご 挨拶

(公社) 愛知県歯科衛生士会
会長 金森 いづみ

令和2年度愛知県歯科医学大会が開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。今年度は中部日本デンタルショーが中止になり、歯科医学大会の開催の可否が検討される中、学術団体としての使命を全うするため開催の英断を下された関係諸団体の皆様方に敬意を表するとともに、ご尽力賜りました皆様方には深く感謝申し上げます。

さて昨年は全世界が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に直面し、人類が未曾有の感染症に果敢に立ち向かった年でした。この感染症の被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、感染の不安を抱えながら医療を支えてくださっている方、そしてあらゆる生活の基盤を支えてくださっている方に敬意と感謝の意を表します。今も続く感染拡大が一日も早く収束することを祈るばかりです。

当会では昨年4月に日本中に発令された「緊急事態宣言」以降、会員の感染不安に対していち早く対応することとし、新型コロナウイルス感染症への理解と感染対策について信頼のおける情報をまとめ、会員に発送しました。併せてコロナ禍における生活すべての不安に対応する相談窓口として「歯科衛生士なんでも相談窓口」を周知し、会員、非会員を問わず歯科衛生士が安心して働ける環境づくりを支援してきました。

また危機の時こそ知恵を絞り研修会をオンラインで行い、コロナ禍でも実施できる新しい形の県民啓発イベントを検討するなど、今までなかなか舵を切れなかった事業内容に挑戦しています。特に「オンライン研修会」は交通費の負担軽減、子育て中の会員も参加し易いなど感染対策を上回る効果が期待できます。このように非日常の中から当会が目指している歯科衛生士の活躍促進、ひいては女性の活躍促進につながる事業展開を進めています。

そこで今回は、企画講演として名古屋大学大学院医学系研究科微生物免疫学講座ウイルス学助教 渡辺崇広先生に「新型コロナウイルスについて ～ウイルス学と歯科臨床の両方の視点で～」というテーマでウイルスの基礎と感染症に対する臨床での感染対策についてご講演いただき、新型コロナウイルスといかに共存していくかについて考えてまいります。

この歯科医学大会が（一社）愛知県歯科医師会、（一社）愛知県歯科技工士会の皆様方と歯科界における「あたらしい日常」についてともに考える機会となり、新しい歯科医療の礎となることを切に望みます。

最後になりましたが、皆さまのますますのご発展とご健康をお祈りして挨拶とさせていただきます。



デジタルデンティストリーの現在地

-CAD/CAM冠の保険導入に期待！-

(一社) 日本デジタル歯科学会 理事長

大阪歯科大学 客員教授 末 瀬 一 彦

歯科医療において、画像診断や歯科用CAD/CAMテクノロジーなどのデジタル化が急速に普及し、歯科治療の効率化、確実性、安全性、標準化が行われるようになり、高品質、高精度な処置を患者に提供できるようになってきた。最近では、口腔内スキャナーの進化によって補綴治療だけでなく、矯正歯科治療、インプラント治療そして初診時の健診など幅広い活用が期待されている。また、口腔内装置などの加工機器として切削加工機だけでなく3Dプリンターの付加造形機器も注目されている。さらに、歯科用CAD/CAMテクノロジーの導入によって、これまで扱うことのできなかったジルコニアや高密度に加圧成形されたハイブリッド型コンポジットレジン加工も可能となり、口腔内の金属修復物を排除することも可能となってきた。このような背景を受けて2014年に「歯科用CAD/CAMシステムを用いたCAD/CAM冠」が小臼歯に限定して適用されるようになり、2016年4月には金属アレルギー患者に対しては医科歯科連携の下に大臼歯部への適用が認められ、2017年12月には条件付きで下顎第一大臼歯への適用拡大が行なわれた。さらに2020年4月には上顎第一大臼歯、9月1日から「前歯部CAD/CAM冠材料」が保険収載されることが承認された。条件が整えば、上下顎の前歯から第一大臼歯までメタルフリーのCAD/CAM冠で修復することが可能となり、審美的、機能的な修復物を患者に提供できるようになった。CAD/CAM冠は先進的な材料であることから、その取扱い、特に支台歯形成や冠の適合性、接着操作には十分な配慮が必要であり、基本的な術式を遵守しなければならない。

今回は、歯科医療におけるデジタル化の現状とともに、CAD/CAM冠の臨床応用における留意点などについてお話させていただきます。

略 歴

1976年3月	大阪歯科大学 卒業	2017年4月	大阪歯科大学 客員教授
1980年3月	大阪歯科大学大学院 修了		昭和大学歯学部 客員教授
1990年4月	大阪歯科大学 講師 (歯科補綴学第2講座) (～1997)		東京医科歯科大学 非常勤講師
1997年4月	大阪歯科大学歯科技工士専門学校 校長 (～2016)	2019年7月	奈良歯科衛生士専門学校 理事長
	全国歯科技工士教育協議会 会長 (2001～2016)		
2008年4月	大阪歯科大学歯科衛生士専門学校 校長 (兼務～2014)		
2014年1月	大阪歯科大学歯科審美学室 教授 (～2017)		
	広島大学歯学部 客員教授 (以下、現在の役職)		

学会関係役職 (2020. 10. 1 現在)

(一社) 日本デジタル歯科学会	理事長
(一社) 日本歯科技工学会	会長
(一社) 日本歯科医療管理学会	常任理事
(一社) 日本歯学系学会協議会	常任理事
(一社) 日本歯科審美学会	理事
(公社) 日本補綴歯科学会	名誉会員 (2018. 4～)
(一社) 日本歯科理工学会	名誉会員 (2018. 4～)

学会専門医

日本補綴歯科学会	専門医・指導医
日本口腔インプラント学会	専門医・指導医
日本歯科審美学会	認定医
日本歯科理工学会	シニアアドバイザー
日本歯科医療管理学会	認定医



Labo Communication

有限会社 関錦二郎商店

関 錦 二 郎

インターディシプリナリーアプローチ＝歯科医療の中で各分野（歯周、外科、矯正、補綴）のプロフェッショナルDDS同士の専門的な連携が注目される中、その以前よりDDS、DH、DTのチームアプローチは必需とされてきた。

しかしながら、チェアサイドとラボサイドのコミュニケーション不足によるエラーや意思の不疎通などが、両者のみならず患者様にも不利益を与える結果を誰しも経験しているところではないだろうか。

チーム医療の一員として補綴製作分野を担当する技工士の視点から、補綴修復を成功に導くポイントやステップに必要な資料などを、実際の症例を元に考えてみようと思う。

略 歴

- | | |
|-------|---|
| 1996年 | 青森歯科技工士専門学校 卒業 |
| 2000年 | クワタカレッジシニアコース 修了 |
| 2002年 | クワタカレッジコンプリートコース 修了
原宿デンタルオフィス 入社 |
| 2006年 | 原宿補綴研究所 退社
岩手県盛岡市にて有限会社 関錦二郎商店 設立 |
| 2013年 | 湯浅セミナー1期 修了 |
| 2014年 | 東京にしむら塾7期 修了 |
| 現 在 | 東京SJCD会員
盛岡インプラントスタディーグループ (MIG) 会員
一水会会員
九塵芥会員
関錦二郎商店教室 主宰
東北大学歯学部附属歯科技工士専門学校 非常勤講師 |



新型コロナウイルスについて ーウイルス学と歯科臨床の両方の視点でー

名古屋大学大学院医学系研究科

微生物免疫学講座ウイルス学 助教 渡辺 崇 広

2019年末、中国武漢市から新型コロナウイルスによる肺炎の流行が始まりました。日本では、2020年3月から感染者が急増し4月に緊急事態宣言が出され、多くの業種が業績不振に陥りました。私たち歯科業界においても唾液の飛沫、エアロゾルなど感染リスクが高いと想像しやすい歯科ならではの特殊性から、患者自身が不要不急だと判断し通院を中断するケースが多く見受けられました。そこに追い打ちをかけるように、ニューヨークタイムズ紙から感染リスクを職業間で比較する記事が出ました。「歯科医療従事者はコロナウイルスの感染リスクが高い」と受け取れるその報道は瞬く間にメディアやSNS等で広がり、なお一層の歯科受診を控える流れとなりました。そのような混乱の中、歯科医療現場では情報が不十分にもかかわらず感染対策のための環境整備に焦燥し、ゴールの見えない取り組みに疲弊する結果となりました。また、消毒薬の使用頻度が増えることに伴い、不適切な使用による健康被害という新たな問題も生じています。

今、世界中の研究機関が連帯して、新型コロナウイルスの正体を暴こうと不屈の努力がなされています。新型コロナウイルスがどのような動きをして私たちに感染するのか、驚きの勢いで新しい知見が蓄積されてきており、ウイルスの特徴を知ることによって私たち医療従事者ができる感染対策は決して少なくありません。一方で感染対策を講じずに、流行の収束を待つことは、愚策を弄することになります。人類が環境破壊、インフラ整備志向を踏みとどまらない限り、新たな病原体の勢力を抑えることは出来ないと想定されているからです。新型コロナウイルスと共存しながら、如何にして国民の健康を守るかという発想の転換も必要です。本講演では、新型コロナウイルスの最新知見の整理に加えて、ウイルスの特徴を踏まえたシンプルかつ持続可能な感染対策について、ウイルス学と歯科臨床の両観点から考察したいと思います。

略 歴

2009年	愛知学院大学歯学部歯学科 卒業
2009年～2011年	浜松医療センター 臨床研修歯科医師
2011年～2013年	藤田医科大学歯科口腔外科 助手
2013年～2016年	名古屋大学大学院医学系研究科微生物免疫学講座ウイルス学 博士課程
2016年	名古屋大学大学院医学系研究科微生物免疫学講座ウイルス学 博士研究員
2017年～2019年	名古屋大学大学院医学系研究科付属医学教育研究支援センター 先端領域支援部門 助教
2018年～	藤田医科大学歯科口腔外科 客員講師
2019年～	愛知学院大学歯学部微生物学講座 講師 (非常勤)
2020年～	名古屋大学大学院医学系研究科微生物免疫学講座ウイルス学 助教

専門医、認定医、学会活動等

日本口腔外科学会認定医
日本有病者歯科医療学会専門医
日本ウイルス学会、日本臨床ウイルス学会、日本癌学会所属